



8月のほけんだより

令和5年
8月号

双葉保育園



新型コロナウイルス感染症の分類が5類に変更されてから、初めての夏を迎えています。これまでの間控えていた、旅行や帰省を楽しむ御家庭も多いかと思えます。外出の際はお子さんの水分補給と休息の時間に十分配慮し、安全にお過ごしになるようお願いいたします。



《7月の欠席状況》

新型コロナウイルス感染症・・・4人
インフルエンザ・・・2人
発熱等・・・40人
RSウイルス感染症・・・3人
ヘルパンギーナ・・・8人
アデノウイルス感染症・・・1人
嘔吐・下痢症状・・・18人
※7月28日現在

発熱・呼吸器症状が見られたお子さんが多くいました。

解熱後に咳や鼻水の症状が残ったり、顔色や口唇の色が白っぽかったり、元気がなかったりすることもあります。乳児の場合は『機嫌が悪い』ということもあります。

解熱後24時間以上経過してからの登園をお願いしていますが、解熱後24時間を経過していても、お子さんが「今一つ本調子でない」と感じたら、御家庭で様子を見ていただきますようお願いいたします。

《8月の保健行事》

健康診断 22日(火)12:15～ つくし組・さくら組

暑い日のプール・水遊びについて

近年、酷暑と言われるほど、夏の日がどんどん暑くなってきています。プールや水遊びの、夏ならではの遊びを楽しみたいところですが、熱中症の危険性が伴い、注意が必要です。

園では、熱中症指数 WBGT 値 31℃以上は外に出ることは危険として、室内で過ごします。WBGT が28～31℃未満は嚴重警戒として、15分間以内で、プール・水遊びをします。

幼児クラスのプールは入水開始時間を早めて、なるべくプールに入れるよう対策を取っていますが、朝から暑い日も多く、子どもたちの楽しみにしていたプールに入れられない日も増えています。お忙しい中、プールカードの記入や水着等の御用意をしていただき、申し訳ありません。御理解御協力をお願いいたします。



解熱剤（熱さまし）って何の薬？

お子さんの発熱の原因は様々ですが、病院で例：「熱が 38.5℃以上になったら使って」などの指示で、『解熱剤』（熱さまし）が食後薬などとは別に頓服薬として処方されることがあります。

発熱は、体が病気の原因となる細菌やウイルスと戦っている時の体の防御反応です。発熱時に解熱剤を使用すると、その戦いは一時的にお休みになり、熱は一旦下がりますが、病気そのものはまだ治っていません。発熱してつらいときは、解熱剤を使用して、一時的に楽になっている間に、食事や水分を取り、ぐっすり眠り体力の回復を図ります。ただ、解熱剤の効果が切れると再度発熱することがあるので注意が必要です。



～お願い～

- * 解熱剤を使用して、解熱した状態での登園は、保育中、急な再発熱の恐れがあり危険です。解熱剤を使用せず、解熱後 24 時間以上経過してからの登園をお願いします。
- * 解熱剤の使用に関しては、医師の指示をお守りください。
- * 発熱は体力が消耗します。ゆっくり静養し、お子さんの体力が回復してからの登園をお願いします。



～乳児に多い皮膚トラブル～

おむつかぶれとまちがえやすいカンジダ感染症

赤いブツブツや皮がむけたような湿疹ができて、おむつの当たらないまたの奥まで炎症が広がっている場合、カンジダ感染症かもしれません。おむつかぶれの薬で症状が改善されない場合は皮膚科を受診してください。

※おむつかぶれ(カンジダ感染症含む)ができたお子さんで、日中の塗り薬の塗布が必要な場合、塗り薬をお預かりしますのでお声掛けください。(病院処方の方に限ります)



爪を短く切ってください

プール・水遊び等、夏は肌を露出して遊ぶ機会の多い季節です。爪が長いと、思わぬけがにつながることに・・・お子さんの爪は短く切ってくださいますようお願いいたします。